

大谷和利の

リアルグッドデザイン賞
Real Good Design Award
第56回
「引っ掛ける」から
「くっつける」へ
所作と形の一致が作る美
写真 / DEXI

毎日行う動作というのは、それが無意識に行われるものであればあるほど頭と体が慣らされてしまい、本来の意味での使い易さや効率というものに目が向かなくなる。たとえば、アップル社がマックのメニューバーを、ウィンドウではなくスクリーンの上端に設けているのも、マウス操作時にそれ以上ポイントが上に動かず、左右の位置決めだけで済むためだ。これは大したことではないと思われがちだが、1日に何回も同じ動作が行われ、それが毎日繰り返されると、大きな差が生まれてくる。

鍵束も、玄関などのフックに引っ掛けることが当たり前と考えるしまえば、何の疑問も湧かないだろう。しかし、この動作にも、フックの上から輪を通して提げ、外すときにも上に持ち上げてから手前に引くという無駄な動きが含まれている。さらに言えば、別々にデザインされたキーホルダーとフックの組み合わせが美しくない。

ワッカは、こうした日常の些細と思われる所作と形に着目し、キーホルダーの輪を半球形の木製ベースに近づけるだけで、強い磁力によって吸着。外す時も手前に引けば済むという、スムーズな動きを実現した。ブランド名のティンブレは「音色」や「響き」を意味し、ワッカが外れる時の音にもこだわった、生活にリズムをもたらすアイテムだ。



暮らしにリズムをもたらす 目と耳に心地よいキーホルダー

大谷和利

Kazutoshi Otani

テクノロジーライター、原宿AssistOnアドバイザー。近著に「アップルの未来」(アスキー新書)。成功する会社はなぜ「写真」を大事にするのか(講談社現代ビジネス)

Timbre

Key Holder Wakka

文字通り、輪っか型のキーホルダーを木製ベースに近づけるだけでしっかり保持され、音にもこだわった、鍵束の定位置となる製品。

価格:3780円

Designed by Mikiya Kobayashi

お問い合わせ

Timbre : <http://timbre.jp/>